2026ディスクドッヂ東京シリーズ



第２戦　大会報告書

1. 大会概要

名 称 ： 2026ディスクドッヂ東京シリーズ第２戦

日 時 ： ２０２６年１０月25日（日曜日）１2:００～１7:００

場 所 ： ミズノフットサルプラザ味の素スタジアム

〒１８２-００３２ 東京都調布市西町３７６-３ Tel ０４２-４８４-１９７７

主 催 ： 一般社団法人日本ドッヂビー協会（ＤＢＪＡ）

協 賛 ： 文化シヤッター株式会社、株式会社ラングスジャパン、株式会社ミカサ、株式会社池光エンタープライズ

2.参加チーム / 9チーム 108名

(1)ドリーム☆ファイターズ(15名)



(2)北ノ台ダンデライオン(13名)



(3)チャレンジファイターズ(11名)



(4)KKDC(11名)



(5)ドッヂビーで敵を滅！(10名)



(6)深大寺アブレイズ(12名)



(7)北ノ台たんぽポーズ(11名)



(8)上ノ原ユネサス(15名)



(9)M.D.C ウィル(10名)



3.予選リーグ結果

■ ２０２６ディスクドッヂ東京シリーズ第２戦　Aリーグ■

		A1	A2	A3	A4	勝点	得失点差	総得点	順位
A1	チャレンジファイターズ		○ 11 － 9	○ 12 － 4	× 9 － 12	6	7	32	2
A2	M.D.C ウィル	× 9 － 11		○ 12 － 7	× 8 － 9	3	2	29	3
A3	北ノ台ダンデライオン	× 4 － 12	× 7 － 12		× 6 － 10	0	-17	17	4
A4	ドッヂビーで敵を滅！	○ 12 － 9	○ 9 － 8	○ 10 － 6		9	8	31	1

■ ２０２６ディスクドッヂ東京シリーズ第２戦　Bリーグ■

		B1	B2	B3	B4	B5	勝点	得失点差	総得点	順位
B1	ドリーム☆ファイターズ		× 10 － 12	△ 9 － 9	× 10 － 13	○ 15 － 6	4	4	44	4
B2	上ノ原ユネサス	○ 12 － 10		× 6 － 12	○ 12 － 5	○ 15 － 3	9	15	45	2
B3	KKDC	△ 9 － 9	○ 12 － 6		○ 13 － 9	○ 18 － 0	10	28	52	1
B4	深大寺アブレイズ	○ 13 － 10	× 5 － 12	× 9 － 13		○ 17 － 3	6	6	44	3
B5	北ノ台タンポポーズ	× 6 － 15	× 3 － 15	× 0 － 18	× 3 － 17		0	-53	12	5

4.順位決定戦結果

■ ２０２６ディスクドッヂ東京シリーズ第２戦　決勝・決定戦■

	チーム名	得点			チーム名
決勝	ドッヂビーで敵を滅！	7	vs.	10	KKDC
３位決定戦	チャレンジファイターズ	15	vs.	4	上ノ原ユネサス
５位決定戦	M.D.C ウィル	12	vs.	9	深大寺アブレイズ
７位決定戦	北ノ台ダンデライオン	11	vs.	14	ドリーム☆ファイターズ
９位	北ノ台タンポポーズ				

5.表彰優勝チームには表彰状および副賞として協賛会社にご提供頂きました公式ディスク270を３枚贈呈しました。参加賞は選手全員にドッヂビーリフレクキーホルダーと協賛会社にご提供頂いたドリンク(Kiyasume)を贈呈。





6.講評

当日は台風30号の影響が心配されましたが、大会開始時には晴れ間ものぞく秋晴れとなりました。





また、本大会には文化シヤッター株式会社様、株式会社ラングスジャパン様、株式会社ミカサ様、株式会社池光エンタープライズ様よりご協賛いただきました。誠にありがとうございました。



盛況のうちに大会を運営できましたのは、協賛各社様、プレーヤー・関係者の皆様のおかげであり、日本ドッヂビー協会として改めて感謝申し上げます。

今大会では、初のディスクドッヂジャパンルール（セルフジャッジ要素を取り入れた特別ルール）の大会を開催しました。ディスクドッヂジャパンルールは最終案内と一緒に配布しましたが、キャプテンミーティングでは複数の方からご質問をいただき、ルールを確認しながらのスタートとなりました。大きな混乱も予想されましたが、選手の皆様のご協力により混乱はなく、予選リーグ、決勝・順位決定戦を無事に行うことができました。

審判を担当したスタッフにとっても、ディスクドッヂジャパンルールでの審判は初めてで、戸惑いや負担もあったようです。それでも無事に決勝まで進行できたことは、本当に良かったと思います。

現在、ご参加いただいたチームの代表者様、当日のスタッフ、DBJA理事からご意見を伺っております。12月に開催する全国大会に向けて、ディスクドッヂジャパンルールの整備をして参ります。

当協会では『ドッヂビーマインド』によるフェアプレーの推進に取り組んでいます。今大会でも「すべてのプレーヤーが共にコートに立ち、スポーツの魅力を分かち合う」ことを徹底していただき、この考え方が選手や関係者の皆様に浸透してきていると感じました。今後もフェアプレーの推進へのご支援・ご協力をお願いいたします。

セルフジャッジにより試合展開が速くなったことは良い点でした。一方で、外野のOBラインを越えたディスクの移動などにより、ディスク保有チームへのディスクの受け渡しが頻繁に繰り返され、試合が停滞する場面も見られました。

昨年の全国大会を参考に内野と外野のパス交換のスピードアップ（正確なスローとキャッチ）により、相手内野が近い状態での攻撃が生まれることを想定していました。しかし今大会では5スロールールもあったことから、相手内野が遠い状態でスローを投げ、キャッチされてしまう場面がありました。5スロールールについては、審判のカウント方法なども見直しが必要だと感じています。各チームには全国大会に向けて、5スローまでにどのような展開で相手内野を攻撃するかを練習で試行錯誤していただき、新たな展開が生まれることを期待しています。

大会結果は、予選リーグ、決勝・順位決定戦を行い、Aリーグ1位の「ドッヂビーで敵を滅！」（予選3勝）とBリーグ1位の「KKDC」（予選3勝1分）による決勝戦となりました。結果は10-7でKKDCが勝利し、2026ディスクドッヂ東京シリーズ第1戦に続く連続優勝を果たしました。KKDCの皆様、優勝おめでとうございます。

🏆優勝KKDC🏆



7.大会ハイライト&スタッフ講評動画

Youtubeにアップしています。ぜひご覧ください。

https://youtu.be/nV46DuF4SP4